

報 廣 しばた

2020
新春
特別号
since 1961
No. 560



「ここに立つの?」「これは逆さま?」などと質問してくる子どもたち。今回の表紙は、柴田小学校 1 年生の児童と担任の先生に協力していただきました。カメラの前でも堂々としている 13 人のモデルに撮影するこちらが緊張しました。

特 集 新年のあいさつ
まちづくり町民懇談会



謹んで新年の

お慶びを申しあげます

新年明けましておめでとうございます。

昨年は財政危機が深刻化する中で、一年となりましたが、今年はやややく危機的な状況から抜け出し、明るい兆しが見えてきた中でスタートを切る事ができそうです。

その理由は、皆様のご協力と着実に財政再建プランが実施されていることです。さらに、都市と地方の格差を是正するための税制改革が行われることとなり、企業の集積度が高く、全国展開している企業がある柴田町は、その恩恵が期待されます。一方で、議会と共に県に陳情してきた社会資本の整備が促進されることになりました。一

つに四日市場の排水機場の整備（22年度完成予定）があげられます。20年度から一部試運転が始まりますと、槻木地区の水田の冠水や住宅地の浸水が緩和されます。二つは20年度に槻木大橋の側道が開放されますので、これで4号バイパスから直接槻木の街中にスムーズに入れるようになります。三つには白幡橋の補強工事が始まることです。こうした流れを生かし、今こそ、住民と議会と行政の知恵と力を結集して地域活性化に向けた次の一手を打っていかなくてはなりません。

柴田町は仙台空港に30分、東北自動車道村田インターと常磐自動車道亘理インターとの中間にあり、仙台までも

45分の所に位置しているため、高速交通へのアクセスは最高です。こうした地理的条件の優位性を生かし、経済のグローバルや情報化が進む中で、世界（グローバル）を視野に入れながら、地域（ローカル）の個性を磨いていくグローバルな考え方を必要があります。町独自の魅力に磨きをかけ、柴田町という小さな世界からもっと広い世界にアピールしていく地域活性化戦略がとても大事になってきます。柴田町のオリジナリティは何と云っても桜と蔵王が望める田園風景です。この美しい景観を皆の手で守り、癒しの空間として付加価値を付けていく、そして地域のブランド化を図っていくことを



基本戦略にしたいと思います。

まず、新規に取り組むべき政策として、町の都市ビジョンと位置づけたコンパクトシティ構想の具体化を目指し地域活性化研究会を立ち上げたいと思います。10年先、20年先を見据えたあるべき柴田町の未来像を話し合うワークショップを開催していきます。

第二は子育てを喜び、子どもたちが元気に育つ環境の整備です。次の世代を担う子どもたちが誕生し、そして、健全に育っていけるようにするために妊婦健康診査の無料の回数を2回から5回に引き上げます。また、子どもが病気になっても安心して病院にかかれるよう外来分の医療費を4歳未満に拡大して援助します。さらに、西船迫保育所や榎木保育所での午後7時までの延長保育の実施、小中学校全校にAED（自動体外式除細動器）を配置します。

第三は生活に必要な社会インフラの整備です。道路の整備として県道巨理村田線海老穴工区が今年3月までに完成しますので、それに合わせて富沢11号線の新設、改良工事に着手します。

さらに国のまちづくり交付金を活用して、新栄通線周辺（6区）の生活道路の整備に着手します。長年の懸案事項

だった四日市場鬼石沢地区排水路工事を実施するとともに、浸水常習地帯となっている船岡西、西住地区での水害対策にも取り組んでいきます。

第四は地域で安心して暮らせる健康福祉対策の充実です。昨年、国に認定された地域再生計画に基づき、仙台大学と連携した健康づくりが本格化します。この事業は学生を健康づくり運動サポーターとして育て、病気の予防を中心とした健康づくりを町全体で展開するものです。また、「しらすぎ共同作業所」や「もみのき園」を地域活動支援センターに移行できないか検討を行います。

第五は、暮らしの充実を図るための生活・文化・スポーツ環境の整備です。数年延ばしていた北船岡のコミュニティセンター施設の建設がいよいよ始まりです。また、入間田テニスコートの利用開始、柴田球場等の体育施設の改善、手づくりの図書館の設置に向けた検討を本格化します。さらに白石川と船岡城址公園の景観を楽しんでもらうために、ふるさとの森整備事業を展開して、観光地としての魅力を高めていきます。今年も、柴田町にとって本当に必要な行政サービスとは何かを皆で話し合

いながら、政策の選択と集中に努め、財政の健全化を図っていきます。

今や時代は大きな変革期を迎えています。地球温暖化が問題となり、人口減少時代、食料や水や資源の不足が懸念される中でいかに豊かで幸せな社会を築いていくか、私たちの生きかたそのものが問われています。利便さやお金ばかりを追い求め心のゆとりを失った社会を転換し、「おかげさまで、お互いさま、もったいない」といった思いやりのある社会づくりのために柴田町は率先して行動していきたいと思えます。

この一年、自分たちの地域は自分たちでつくるといった自治の原則に立ち返り、人のため、地域のために行動するボランティア活動を活発化し、人と自然が輝くまちづくりに向けて努力してまいりますので、皆さまのご協力よろしくお願いたします。

柴田町長 滝口 茂



町の未来を 共に考える

まちづくり町民懇談会

滝口町長が各地区で住民の皆さんと直接対話をする「まちづくり町民懇談会」が町内8会場で行なわれました。全体で286人が参加し、柴田町がどうあるべきかを一緒に考えました。

今回、各会場で寄せられた146の質問の中から、16の質問と回答を抜粋してお知らせします。

なお、すべての質問と回答は1月下旬に町のホームページに掲載する予定です。

農業・商工業

問 阿武隈急行の東側の開発について検討していただきたい。中名生、下名生は水田だけであり、テレビ番組でも大瀧村の入植者が、借金を背負い離農している現状の番組があったし、魚沼産のこしひかりの価格下落の報道もされ、農業の未来が見えない。農家は機械代の支払いでいっぱいなので、農業振興についての考えをお示し願いたい。

答 報道は、NHKでのライスショックという番組だと思いませんか。今朝も職員でその番組について話していたところですが、お話のとおり、大瀧村に入植した方たちが、米の価格下落により窮地に立っているということについては、認識しています。今、国が実施している農業政策としては、地域担い手は4ヘクタール以上、集落営農については20ヘクタール以上、この様な方たちには、重点的に補助金を出しましょうというシステムになっています。また、阿武隈急行より東側につきましては、五間堀排水機場、三名生排水機場という施設を県営湛水防除事業で整備しており、受益地として

カウントされており、土地の用途の変更は補助金の返還などの精査が出てまいります。社会情勢がもつと変化した場合は、皆さんの協力を得ながら考察していきたいと思えます。

問 太陽の村について、施設の有効利用という点であの施設は大変有効に使用されているが、予算はどのようになっていくのか教えていただきたい。

答 指定管理委託料として、800万円計上しています。昨年の4月から太陽の村に管理をお願いしているわけですが、施設の運営自体は、食堂などの経営による独立運営で、委託料につ

いては芝生管理に大半が使われています。前年度は若干ではありますが、黒字経営だったという報告を受けています。

問 収入の固定化という観念は駄目だと思う。いかに人口を増やしていくかを考えなければならぬと思う。そのためには企業誘致が必要だと思うが、町には現在、企業を誘致するための土地はあるのか。

答 現在、町の企業立地のための用地ですが、船岡工業団地、神明堂工業団地、榎木の工場適地の指定を受けている菱食とマルトモの周辺、成田の三斗内地域の山を削って工場を誘致した





いと考えています。また、今回の町の企業立地促進条例の基本的な考え方としては、県の富県戦略、宮城県工場総生産額は8兆5千億円ですが、これを10カ年で10兆円に上げるために、県もいろいろ条例などを整備しています。町もこれに乗りまして、高度電子機械の部会の一員になっています。これは6市8町1村（仙台市、白石市、名取市、多賀城市、栗原市、大崎市、柴田町、村田町、大和町、大郷町、富谷町、加美町、涌谷町、美里町、大衡村）で構成されて指定を受

けています。今回トヨタ自動車の生産子会社「セントラル自動車」が来るわけですが、これに付随してやってくる自動車関係以外の高度電子関係の企業がぜひ、町にも来て欲しいと考えています。そうしますと、県の補助金に町の助成金と雇用関係の助成金の3つの助成が得られる事になります。企業誘致をしまして人口を増やし地域の活性化を推進していきたいと考えています。

税金

問 現在の税金の収納率はいくらか。滞納率はいくらか。そして、その対策はどうしているのか。

答 平成18年度は、全体の収納率が、93・4%で未納割合が6・6%です。滞納額は2億6千704万1千29円です。現年度は、収納率98・5%で未納割合は1・5%となります。現年度の収納率で見ますと県内では9番目の収納状況となっています。対策ですが、滞納者は低所得者や失業者の方などが多く、分納誓約をしていただき、納税していただいています。分納誓約しても守っていただけない方について

は、滞納処分をおこない、給与や預貯金、不動産などを処分させていただく形で進めています。今後も滞納額を減らすよう努力していきます。

環境

問 ごみの削減は、1番可能だと思ふ。これは町民の意識改革が最も大切である。生ごみにトレイを混入して出している。基本的なことを守ればごみの減量は可能である。そのためには町民の意識改革のための啓発をしっかりといくらいに町で実施していただきたい。

答 これからは町民の皆さんの意識改革で、より一層ごみの減量化を推進したいと思ふ。仙台市ではごみ袋の有料化を進めています。町民の意識改革で有料化しなくてもごみが減量されるようになって欲しいと思ふ。11月からごみ減量化の取り組みが町でも行われますが、当面1割のごみ減量に向け官民が一体となり協力して実施していきたいと思ふ。

問 ごみの問題について今年班長なのでごみ出しを見ている。買い物袋で出された場合、中身まで見ると資源ごみと燃えるご

みが混在している。アパートには大学生や会社勤務の方もいるが指導はどのようにされているのか。ごみ袋の値上げはやむを得ないが、マナーの悪さに悩んでいる。

答 町内に集積所は650カ所あり、うちアパートの集積所は130カ所あります。ごみの出し方が悪いと担当が行ってごみを持ち帰ってきます。アパート関係は、オーナーと連絡を取って清掃や入居者にごみ出しカレンダーを配付しており、大学には、4月のオリエンテーションの際、新入学生に指導徹底しています。今後もアパート管理者と協議しながら進めていきます。

問 町内の落書き対策はどうなっているのか。

答 子供たちの健全育成ということで「町民会議」というのを作りまして、各分会に分かれて検討しています。落書き対策については、環境改善部会を取り組んでいくこととしています。

福祉

問 最近の報道で、医者が集団で辞め医者はいない状態になり、医療停止や廃業となる病院もあると聞く。中核病院の医者も約

7割が大学病院からの医者というが、一斉に引き上げるといふ心配はないのか。

答 現在、呼吸器科の医者が2地区に総合病院は複数必要ないのであるということ、刈田病院との統合という考え方も報道されています。東北大学の先生も診療科目の機能を分担しても良いのではということも話しています。20万人程度に一つが病院の適正規模とされています。中核病院は1市3町で負担金を出して運営しているが、救急患者の1割程度が1市3町以外の住民です。それに要する費用についても、1市3町が定められた負担率で負担している現状です。このような状況を考えれば、病院運営は1市3町の枠を外して県南域で考えるべきだと思います。また、中核病院は2次医療であります。高度医療を目的として設置された病院であり、個人開業医で済む病気が中核で処理するようになれば、実際に高度医療を必要とする患者を受け入れられない事態の発生も考えられるので、その点はよく利用者の方にも理解していただきたいと思います。

問 介護保険ですが、ある学者が前より悪くなっているのではないかと指摘をしていた。2000年から介護保険が立ち上がったわけだが、自治体により差が出てきた。仙台市は政令指定都市で包括支援センターは民間に委託しているようだ。介護保険だけではなく、健康関係で町は胸を張ってやっていることがあるのか。また仙台大学が地域再生法として文部科学省の採択を受けて進めているようだが、町との関わりの内容をお知らせ願いたい。

答 サービスが悪くなったと言われるのは、平成17年に制度の見直しがあり運用が厳しくなったことによりです。在宅介護のヘルパーが家政婦のような仕事まで引き受けるようになり、これを続けていたら介護保険制度は立ち行かなくなるという判断がありました。健康づくりでは、介護予防のためのダンベル体操に取り組んでいます。現在、20サークル400人が参加しています。仙台大学では、運動指導・支援の担い手となる学生を育てて協力したいと言っています。高齢者の運動や健康について、学生が運動の継続となるカギと

考えています。楽しくできる運動、効果的、安全に指導できる人材を仙台大学が養成します。養成された運動のサポーターを地域に派遣して健康づくりの支援システムをつくり、地域貢献することにより本町の健康づくりに寄与したいというものです。仙台大学では、今後例えば200人のサポーターを養成するということなので、町としてはすべての行政区（40行政区）に5人1組でサポーターを支援いただき、運動を展開していきたいと考えています。

財政

問 実質公債費比率について教えていただきたい。女川町が3.5は理解できる。白石市が9.6というのは立派だが、どういうことなのか。

答 女川町については、ご存じのとおり女川原子力発電所があるため、国からの交付金は県内で一番低い状況です。2番目は白石市となっています。しかし、白石市の借金は柴田町とあまり変わりません。それではなぜ、公債費比率が低いのかということになります。柴田町と同じ程度の人口であっても、白石市

の交付金は40億円を越えていますが。柴田町より人口の少ない角田市でも柴田町より交付金が10億円ほど多く交付されています。つまり国の制度上、同じ規模の人口であれば、市は町よりも多くの交付金が交付されます。このことにより公債費比率が低いものと思われれます。また、白石市は早い時期から中長期計画に基づき財政計画を策定し、行政運営をしてきたことによるものと考えます。

問 いつまで財政再建プランの説明会でも話をしていきますが、財政再建プランを完全実施した場合、平成26年度に収支額の差し引きが約6億7千万円の黒字になります。それではなぜ、平成26年にこのような状況になるかと申しますと、この年で借金返済額が17億円から8億円に減ります。もちろん職員の数も減ります。平成26年には投資的事業が可能となると考えています。実質公債費比率については、3年間の平均により算出しますので、18%以下になるのは、その5〜6年後になると思います。

その他

問 桜の下を走るマラソンは復活してほしい。場所は自衛隊の中なので交通の心配が無いし、近くに仙台大学もあるのでボランティアでできるのではないかと楽しみにしている人がいるので復活していただきたい。

答 さくらマラソンですが、確かに要望もあります。しかし、やりたいという人たちが連絡を取り合って、自分たちはこまめやるので、役場も手伝って欲しいという形に変えていかなければ駄目だと思っております。町の職員もこれから70人減っていきます。その中で大変要望の多い防犯対策、健康づくりなど、町の仕事は増えてきているので、自分たちでできることは、住民自らが企画し、実行していく体質に変えていかなければならぬと思っています。

問 農村部は、日中は高齢者や子どもだけの地域になるため、病院などへの交通手段はタクシーで3千円くらいかかってしまう。町のマイクろバスなどを定期的に運行することはできないか。

答 近隣市などでも、単独でバスの運行をしているが、空席が





多い状況です。またデマンド型タクシーの手法も考えられますが、タクシー会社との調整が必要となります。以前、福祉関連で一般車両による送迎について、特区を取得し福祉有償運送を実施しましたが、対象者は障害のある人などの移動困難者ですので、精査しながら検討していきたいと思えます。

問 学校の建て替えと大規模改修の話があったが、その原因は老朽化によるものなのか、それとも耐震診断による結果に基づくものか教えていただきたい。

答 町内の学校の耐震診断については、昭和56年以前に建築さ

れた榎木小学校、船迫小学校、榎木中学校、船岡中学校を対象として、平成9年から12年にかけて耐震診断を実施しました。

診断の結果、榎木小学校、船迫小学校については、基準を満たしていましたが、榎木中学校が建築してから43年、船岡中学校も38年経過しており、老朽化した建物で、耐震の結果も問題があり、大規模改修や補強工事が必要であるということでした。

改築も考えながら、今後10年間の事業計画の中に組み込んでいきたいと考えています。

問 現在、集会所は指定管理者制度により地域で管理を行っており、小さい修繕は地域で、大きい修繕などは町が実施するということで進んでいるのですが、我が地区の集会所の屋根は塗装がはがれる状況です。集会所を地元で払い下げるとい話も聞いているが、その時期はいつ頃なのか。町が地区の施設として払い下げるのであれば、区費を使用して屋根の塗り替えを実施したい。

答 町には40の行政区があり、2行政区を除いて集会所があります。その集会所をすべて町の財源で建築しているというのは、

ほかに類を見ないことです。ほかの町ですと、町からの補助金を地元が受けて、残額については地元が負担をして建設するという手法を採用しています。財政再建プランでは、3年後くらいには、地元で払い下げたいとの考えを持っています。その時には、大きな修繕は町が実施し、地元で払い下げたいと考えています。補助事業で建築した集会所などもあり、払い下げの時期や方法を検討中です。また、再建プランでは、特に老朽化の激しい、北船岡、四日市場沖、海

老穴地区の集会所については、建て替えを予定しています。

問 平成17年度から3年間ということで実施されてきた地域文化・スポーツ活動の奨励補助ですが、地区活動を実施した際に区民にアンケートを実施したところ、参加者200人程度でしたが、継続を希望した方は半数程度だった。町ではどのように考えているのか教えてほしい。

答 地域文化・スポーツ活動の奨励補助制度については、計画のとおり平成20年度から廃止というところで進めていくと考えています。

まちかど NEWS



時空の門をくぐり、いざ出発！

町の歴史を探訪して

NEWS

町の歴史に触れ、理解を深めようと、エコミュージアム研究会せんなん主催のウォークラリー「しばた時空の旅」が11月18日に行われました。奥州街道コース（12キ）と城下町コース（6キ）に分かれ地図を頼りに関所を目指し、途中出題された問題に頭を悩ませる場面もありました。参加した家族連れなど約190人は時々雨が降る肌寒い天気の中、自分の足で歴史を実感しました。

お正月を作ろう

NEWS

11月24日、槻木生涯学習センターでウィークエンド遊ゆう塾「親子しめ縄作り」が行なわれました。普段、なかなか体験することができないしめ縄作りにも大人も子どもも無我夢中。慣れない作業に最初はとまどっていましたが、先生が舌を巻くほどの上達ぶりで、次々とより上げて、伝統の技に触れていました。完成したしめ縄は、お正月にぴったりのどれも素晴らしい出来栄でした。



自作のしめ縄で新年をお出迎え



さあ練習。一人一人に話しかけるつもりで

私らしい自己表現

NEWS

コミュニケーション能力の向上を図り、社会や地域でリーダーとして活躍できる女性の養成を目指した講座「女性自己表現セミナー」が12月15日開催されました。今回は、フリーアナウンサーを講師に迎え「人前での話し方」を34人が受講しました。このセミナーは全部で4回。さまざまな講師を迎える講座が人気です。今後は「書き方の基本を学ぶ」などを楽しく学習する予定です。

特区と地域再生計画が認定

NEWS

内閣府の構造改革特別区域計画の第15回認定で「柴田町少子対策臨時保健師及び保育士職員の任用期間の延長特区」が認定され、子育て支援のための人材を安定的に確保できるようになりました。また、地域再生計画の第8回認定では、仙台大学の知識や技術、施設を生かした健康づくりを目的とした柴田町「伸ばせ！健康寿命」スモール・チェンジ」健康のまち再生計画が認定されました。



12月18日、全国を代表して溝口町長が認定書の交付を受けました

人口と世帯数	39,145人 (前月比4人増)	19,599人 (前月比9人減)	19,546人 (前月比13人増)	14,437世帯 (前月比0世帯)	(平成19年12月1日現在)
--------	---------------------	---------------------	----------------------	----------------------	----------------